

ロータリー財団補助金管理セミナー報告

地区財団補助金小委員会 委員長

宮里唯子 (茨木西RC)

2014年2月15日(土)、大阪YMCA会館にて財団補助金管理セミナーを実施致しました。

このセミナーへの参加は、クラブが財団補助金プログラムに参加する為の資格認定プロセスのひとつですが、もう一つのプロセスであるクラブの覚書も当日回収致しました。セミナーは以下の要領で開催されましたので、ご報告申し上げます。尚、当日クラブによる財団補助金活動の事例発表に御協力頂きました発表者の皆様には、この場をかりて心より感謝申し上げます。

[開会挨拶]

財団部門顧問 PDG 大谷 透(大阪西南RC)

各クラブのロータリー財団委員会は、その奉仕活動を推進するエンジンです。燃料であるロータリー財団の年次寄付の増進と確保が大切な目的ですが、この目的を実現するには資金管理の公正公平さが重要です。そのために4つのテストの実行が何よりも求められます。4つのテストを日々忘れずに財団活動に邁進し、世界で奉仕活動を実施しましょう。本セミナーがその一助になることを願います。

[新補助金モデルとクラブの資格認定]

財団委員長 溝畑正信(東大阪東RC)

補助金を使用した奉仕活動は「世界で良いことをしよう!」の標語の実践です。補助金を利用した奉仕活動を積極的に実施してください。

[クラブ覚書(MOU)について]

財団資金管理小委員会 委員 片岡利雄(大阪南RC)

各クラブからのチェックリストの回収結果を小委員会では検討しました。チェック項目中、「補助金管理セミナーにクラブ会員を出席させている」や「利害の対立や利害の対立の可能性について、確認している」との項目のチェック率が期待した値よりも低かったことが目につきました。MOUの周知と理解の向上に向けて小委員会としてもより一層の努力をして参ります。各クラブの

皆様にもご協力お願いします。

[財団補助金管理について]

財団補助金小委員会 委員長 宮里唯子(茨木西RC)

2013~14年度の今日現在での当地区の補助金利用プログラムの利用実績は、地区補助金(DG)が44クラブ、グローバル補助金(GG)がTRF承認済み案件7件(内5件は人道奉仕)、今期中になお2件が更に承認されると思われます。我が国では当地区が最も優秀な成績を残しています。財団補助金活動やプロジェクトでは、領収書を添付した支出明細の書かれた報告書を提出することは義務ですが、地区補助金を利用された44クラブの内、現在、約10クラブが報告書を提出されていません。TRFによる監査の結果、地区全体への補助金交付に支障となることが懸念されます。必ず報告書を提出して下さい。

グローバル補助金(GG)を使用した奨学金について補足します。旧時は地区が学生を選考して派遣していましたが、FVPの制度では各クラブが奨学生派遣を提唱することができます。GGの奨学金制度は、元来職業人を念頭に置いて設計されたものだけに選考要件が厳しいものがありますが、大いにチャレンジしてください。なお、6つの重点分野の内「基本的教育と識字率向上」の中に英語教育が含まれるようになりました。実施国が英語を義務教育の一環としているか、公用語が英語とされている場合に限られます。

GGは設備やハードの充実という物的支援は20%、啓発や教育指導等のソフト面の支援が80%の割合で立案する必要があります。プロジェクトの立案に際しては、単に物品の提供に留まらず、必ず研修等のソフト面での支援を加えて下さい。

GGでもプロジェクト総予算の10%を臨時費として申請することができるようになりました。計画時と実行時のタイムラグからくる為替差損や物価変動のヘッジのためにも臨時費の計上をご考慮ください。

[クラブによる事例発表]

補助金担当グループリーダー 四宮孝郎(大阪西南RC)

地区補助金

- ①「ミャンマーにおける人道的国際奉仕活動」
吹田RC(豊谷久仁子会員)
- ②「在日留学生に奨学金を支給」
豊中RC(畑田耕一会員)
- ③「地元における社会奉仕プロジェクト」
大阪フレンドRC(栗原大会長・瀧尻浩士会員)

グローバル補助金

- ①「台湾における人道的国際奉仕活動」
大阪梅田RC(中西藤和会員)
- ②「グローバル奨学生」 千里RC(萬年成泰会員)

[講評・閉会挨拶]

泉 博朗GE(大阪帝塚山RC)

FVPの実行初年度にして、日本において我が2660地区が補助金を使った奉仕活動の案件数で最も優秀であったことは誠に誇らしいことです。各クラブの熱意と努力の賜物です。本日もご熱心に参加いただきありがとうございました。

なお、次年度実施のプロジェクトに要する地区補助金の申請期間は、本年の4月1日から5月末日までです。先着順で受け付けて枯渇すると補助金が打ち切りとなることですので、お早めに申請していただけますことをお願いします。

また、実施されましたクラブからの報告書が未提出のままですと、TRFから地区への監査で説明に支障がでますことと、ひいては地区全体の信用の失墜の事態を招きかねません。このような事態を招かないためにも必ず報告書は期限内に提出いただけますようお願い申し上げます。

